

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

中学校区におけるめざす子ども像 自ら学び成長し、気持ちの良いあいさつができ、思いやりがある子ども

**堺市立大泉中学校
校長 米澤 昭子**

令和6年度 重点目標 自分の言葉で自分の考えを伝えられる子の育成

1. 「自ら学ぶ子」「つくりだす子」「仲良くする子」◎ICを活用しての一斉指導・個別最適な学び・協働的な学びをとおして自ら学びを進められる子の育成 ◎前期・中期・後期を意識した子どもの育成 ◎「本物との出会い」をとおしたキャリア教育の推進 ◎グリーンスクールプログラムをとおした規範意識の向上 ◎カワセミはがきを活用した自尊感情の向上 ◎デジタル教材やNSを活用し、英語を話そうとする態度の育成

2. 「情熱」「指導力」「教育公務員としての自覚」◎大泉学園授業スタンダードの活用 ◎教科の専門性を活かし、児童生徒が主体的に学べる授業の推進 ◎教科の特性を活かし、9年間を見据えた指導 ◎妥当性・信頼性の高い学習評価・正確な進路対策 ◎コンプライアンスの遵守 ◎定時退勤日の遵守・時間外在校時間等時間の削減・ICTの活用による働き方改革

3. 「安心・安全」「チーム力」「未来をつくる」◎人権尊重の精神に立った教育活動 ◎個に応じた特別支援教育の充実 ◎「どの子にもわかる授業づくり」による居場所づくりや仲間づくり ◎いじめの未然防止・早期発見・早期解決 ◎危機管理体制の徹底 ◎児童生徒の健康管理の推進 ◎中学校給食モデル校としての実践 ◎学校・家庭・地域・関係機関とよりよい関係づくり

<p>「確かな学び」の現状</p> <p>昨年度の大阪府チャレンジテストの結果から、基礎的な学力の定着が今後の課題であることがわかった。今後は、協働的・対話的に学習を進めることで思考力を高めていきたい。また、大泉検定では対策週間を設けて取り組んだことで、学期ごとの各教科の平均点が少しずつ上がり徐々に成果が出ていると考える。学校評価アンケートの「家庭学習」の項目では、肯定的回答が70%を超えたことである程度、家庭学習の定着が図られてきたと考える。今後も継続し、肯定的回答の数値を上げたい</p>	<p>「豊かな心・健やかな体」の現状</p> <p>「カワセミはがき」を活用して「いいとこみつけ」に取り組む中で、「グリーンスクール」の項目で肯定的回答が85%を超えており、日々の取り組みが実を結んでいると考えている。また、昨年度、新体力テストの記録で年度終わりの数値が向上している項目が多く、体育の授業の積み重ねが成果として表れていると考えている。また、運動行事に積極的に参加しているとの回答が90%を超え、運動に対する意欲が高い。スマホの使用時間では未だに6割の生徒たちが2時間以上の使用時間であり、今後も継続して指導していく必要がある。</p>
---	--

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (11月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	思考力の育成	論理的な思考力の向上	★「思考力」の育成を軸とし、「大泉授業スタンダード」に基づき、指導法のさらなる工夫により、考える力の一層の育成をめざす	「思考力」項目で肯定的回答85%以上 上チャレンジテストの「思考・表現」の問題で昨年度正答率を上回ること	学校評価アンケート (教員用) チャレンジテスト	1月	○	○	「思考力を使って表現しようとしている」の質問での肯定的回答は70%弱となっているが、チャレンジテストの「思考・表現」の問題では昨年度より1.9ポイント上昇しており、授業づくりや指導方法の改善に取り組んできた成果と考えられる。 大泉検定では対策週間を設けて取り組んでいるが、平均点は80点弱と目標に届かなかった。基礎学力の定着のため補習なども行っており、引き続き基礎学力向上に努めていきたい。 家庭学習の定着を図るため、ホームワーク週間を年5回実施した結果、家庭学習の項目での肯定的意見は、70%を超えているが目標とする75%以上までは届かなかった。
		基礎基本の徹底と活用、家庭学習の定着	★朝の学習・大泉検定・家庭学習を通して、漢字力や計算力、語彙力などの基礎学力の定着を図る。 ●HW(ホームワーク) 週間・各教科の学習計画の取り組みを実施し、家庭学習の習慣化を図る。	大泉検定で平均点80点以上	大泉検定	各学期	○	△	大泉検定では全教員で対策週間を設け、取り組んでいる。平均点80点以上には到達してはいない教科もあるが、1学期に比べ2学期で平均点が上がっている。 家庭学習の定着を図るため、学期2度程度、ホームワーク週間を実施している。
	問題解決能力	総合的な学習の時間の充実	★生徒が主体的に探究できるような総合的な学習の時間の授業づくりを通して、問題解決能力を高める。	「総合的な学習の時間」の項目で肯定的回答95%以上	学校評価アンケート (生徒用)	1月	○	○	「総合的な学習の時間では、自分たちで考えて課題を解決しようとしている。」の項目で肯定的回答91.1%と各学年での取り組みや学校行事を通して、多くの生徒が主体的に取り組むことができている。また、「自己実現」の項目で肯定的回答が80%以上となっており、「立志式」「職業体験セミナー」「進路学習」といった各学年での取り組みは自分の夢や目標を明確にしやすく、自己実現に向けて努力しやすいものとなっているので、継続的に取り組んでいきたい。
		キャリア教育の充実	★ドリームファイルの活用を通して、「自分の夢や目標を明確にして、自らの行動を振り返り、実現に向けて努力できる子」の育成をめざす。	「自己実現」の項目で肯定的回答75%以上	学校評価アンケート (生徒用)	1月	○	○	9年生は進路学習において、今の自分を見つめ直し、将来について考えている。8年生は、キャリア教育で職業体験セミナーに参加。7年生は2月に立志式を実施する予定である。各学年の取り組みをドリームファイルに残し、自らの行動の振り返りに活用している。
豊かな心・健やかな体	豊かな心	互いに認め合える集団作り グリーンスクールの推進 自尊感情を高める	●★「カワセミはがき」を年間通して活用し、「いいとこみつけ」に取り組んでいく。また、異学年交流や生徒会・学校行事等での子どもたちの活躍の場を通して自尊感情を育てていく。	「グリーンスクール」の項目で肯定的回答90%以上 「自尊心」の項目で肯定的回答85%以上	学校評価アンケート (生徒用)	1月	○	○	文化発表会等の学校行事を中心に「カワセミはがき」での交流を行い、子どもたちの自尊感情を高める活動を行っている。 異文化交流では、他学年との積極的な交流を通じて、互いに認め合える集団を作っている。
		人権・道徳教育の充実	★全学年で道徳の公開授業を行い、人権学習も学年の垣根を越えて行う。日々の道徳の授業を通して自他の立場を尊重し合い、よりよい人間関係を構築していく感性を育てていく。また、全職員を対象とした研修も行う。	「豊かな心」の項目で肯定的回答85%以上	学校評価アンケート (生徒用)	1月	○	○	全学年で学年の教員が持ち回りで授業を行い、いつでも授業参観が出来る環境を整えている。また、全学年で11月の土曜参観で道徳の公開授業を実施した。
	健やかな体	体育授業での基礎体力の向上	・体育授業全体を通して、筋力・筋パワー・筋持久力・全身持久力・敏捷性・柔軟性をバランスよく高めることができるよう工夫する。 ・体育大会などの行事を通して、運動に対する意欲を高める。	新体力テスト(年度初め・年度終わり)の結果を比較し、数値を向上させる 「運動行事に積極的に参加している」で肯定的回答90%以上	新体力テストの記録を比較 学校評価アンケート (生徒用)	5月・2月 1月	○	○	新体力テストにおいて、全国平均と比較して特に能力が低かったシャトルラン(全身持久力)の5月と2月を比較した。7.8年生男子で平均約7回の増加、8年生女子でも記録の向上が見られた。部活動や体育の授業にまじめに取り組んでいる結果と考えられる。また同テスト付属アンケートにおいて、運動やスポーツが「得意」と回答した生徒より「好きである」と回答した生徒が全学年平均で11%高いことから、運動やスポーツに苦手意識がなくても積極的に授業に取り組むことができていると考えられる。
健全な生活習慣の定着		★はつらつカードで自らの生活を振り返り、基本的な生活習慣を定着させる。 ・食育を通して健全な食生活に関する知識を身につけ、マナーを養う。	「ゲーム・スマホ」の項目で使用時間を1日2時間以内	堺市児童生徒学習生活状況調査	1月	○	○	堺市児童生徒学習生活状況調査において、子どもたちが「ゲーム・スマホ」を2時間以上使用している割合が高い。今後も集会等で周知していく予定である。	
小中一貫教育	小中一貫校として、学びと育ちの連続性ある9年間の系統的な指導体制を確立する。	★小中の教員が互いの専門性を学び合うことで授業力を高め、9年間の系統的な指導体制を確立する。 ・小中一貫校の特性をいかして、全職員が共通の教育理念で教育活動にあたる。	学園会議・学園研修の計画的な運営・実施 学校評価アンケートの「一貫教育」項目で肯定的回答95%以上	学校評価アンケート (教職員・保護者用)	1月	○	◎	◎	学年間の交流や小中合同研修を通じて、お互いの授業力向上に努めている。また、定期的に学園研修を実施し研修を積んでいる。 学園会議や小中生指導委員会等で共通の課題に対して、議論し一丸となって取り組んでいる。

校長より(年度末)
 思考力の育成を中心に据えた指導方法や大泉検定によって、生徒の学力向上の成果が結果に出ていることは嬉しく思う。今後も、一人ひとりの生徒の個性を大切に、小中一貫校の良さをフル活用した、総合的な学力向上に取り組んでいく。
 学校関係者・評価者から(年度末)
 いろいろな課題に対して、主体的な取り組みが感じられる。地域外の自治会役員の方々から小中一貫校おらやまいとの声も聞かれます。今後も先生方が連携して、大泉学園を盛り上げてほしい。

